

現代芸術論におけるデザイン学生の授業感想と教員からの通信 #2

ミニマルアートからニューペインティングまでの現代美術

上遠野 敏

札幌市立大学デザイン学部

抄録：本研究は「ミニマルアートからニューペインティングまで」の20年間の現代美術を分かり易く解説したものである。本学デザイン学部の授業「現代芸術論」での毎回の授業感想で書かれた学生の質問や疑問を、次の授業までに筆者が返答を作成して「上遠野通信」として配布したものを基にしている。特に関連の深い記述を抜粋して、講義で教授した内容や、美術の考え方、学生からの質問や感想の分析と考察を交えて、現代美術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論の観点から明らかにした。デザインや芸術文化を創造するためには、先人の歴史を学ぶと同時に芸術文化も学ばなければならない。創造の源泉として、本研究が考え方の大きなヒントになるであろう。「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」を#1、「ミニマルアートからニューペインティングまで」を#2、「1980年代の美術～現在（2007年）まで」を#3とした。現代美術の系譜を通して作品の理解を深めることを目的としている。

キーワード：現代美術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論

I. 研究の背景・目的

芸術は「哲学の具象」である。特に現代美術は「時代を映す鏡」とも言われ、時代背景と密接な関係を結んだメッセージが現れている。それは表現の自由を最大限に保障している証である。しかし現代美術に対して本学デザイン学部の学生を含め人々の情報量は極端に乏しく、難解であり垣根が高いと感じているのが一般的である。鑑賞する側にも多少の知識を必要とするのは「美」の価値観が時代とともに変化して、創造の概念が拡張しているからと言える。本学2年生を対象にした「現代芸術論」の講義では、1910年代のダダイズムから2007年の現在までの流れを、先人のユニークな創造の作品スライドを見せながら、筆者が現代美術家としての目を持って易しく解きほぐした。表現の自由を尊重しながら、発想の展開を理解することは、デザイン活動においても自己の心を解放して創造空間を拡張してくれるものと確信している。

本研究では「ミニマルアートからニューペインティングまで」の20年間の作品を通して講義した内容と併せて、学生から寄せられた質問に答えることによって、「現代芸術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論」の観点から現代芸術の歴史を概観し表現の根幹を明らかにした。

学生の現代美術に対する戸惑いや興味は、授業を進めの中で理解が深まり親しみへと変化する心理も読み取ることができる。本学の特徴である看護学部との学部連携

の授業においても、デザイン教育においても現代美術の創造の歴史を系譜を通して理解を深めることは、人間性をより豊かにして、デザインや看護の専門性をより拡充することが期待できる。

II. 研究方法

1. 現代芸術論について

受講生88名、本学デザイン学部2年生76名、札幌市立高等専門学校専攻科1年生12名。

選択科目、2年次前期、90分×15回、2単位

〈科目のねらい〉

現代芸術の基本理念とその特徴を、時代背景や地域特性とともに概説する。モダンアート、ダダイズム、シュルレアリスム、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、アースワーク、コンセプチュアルアート、ポストモダニズム等について、代表的な作家の作品を紹介しながら、歴史的・地域的特徴について概観する。

〈授業の目標〉

- ・20世紀から現在までの現代芸術が系譜を通して理解することができる。
- ・現代芸術の理解を深めることによって、デザインの専門性を拡充することができる。
- ・表現の自由を尊重し、発想の転換や創造の概念を学ぶ。

表 1 現代芸術論シラバス

第 1 回	現代美術概説：モダンアートから現代までの流れ 1	アート関連：ショートフィルム紹介 1
第 2 回	現代美術概説：モダンアートから現代までの流れ 2	〃 2
第 3 回	芸術の転覆①：マルセル・デュシャンの反芸術的たぶらかし	〃 3
第 4 回	芸術の転覆②：ダダイズム，シュルレアリスム	〃 4
第 5 回	脱イリュージョン：抽象表現主義，アンフォルメル，具体美術	〃 5
第 6 回	大衆文化の夜明け①：ネオダダ，ポップアート，フォトリアリズム，オブアート	〃 6
第 7 回	大衆文化の夜明け②：ブリティッシュポップ，ヌーボレアリズム，ネオダダ・オルガナイザーズほか	〃 7
第 8 回	概念の構築：ミニマルアート，プライマリー・ストラクチャー，コンセプチュアルアート	〃 8
第 9 回	物の言葉を聴く①：アースワーク	〃 9
第10回	物の言葉を聴く②：アルテポーベラ，もの派	〃 10
第11回	ポストモダニズム①：ニューペインティング	〃 11
第12回	ポストモダニズム②： 1980 年代の美術・アートメディアとしての写真，ニュースカルプチャーなど	〃 12
第13回	多様化する表現：1990 年代の美術・シミュレーションほか	〃 13
第14回	物質と非物質の行方：現在の美術	〃 14
第15回	映像アートの検証	

〈授業の流れと内容〉

授業シラバスの中盤部分の第 8 回から第 11 回までの講義での現代美術のながれが本研究の考察事項である(表 1 を参照)。

授業では豊富なスライド資料と映像資料，レジュメ，参考資料を用いて行われる。第 8 回，概念の構築：ミニマルアート，プライマリー・ストラクチャー，コンセプチュアルアート，第 9 回，物の言葉を聴く 1：アースワーク，第 10 回 物の言葉を聴く 2：アルテポーベラ，もの派，第 11 回 ポストモダニズム 1：ニューペインティングを紹介した。併せて，70 年代日本の美術の状況も取り上げた。

同時に，アート関連のショートフィルムも毎回紹介している。アート系の映像は，マスメディアに取り上げられることも少なくマイナーとも言える。しかし良質な映像が多く学生の感性と知識を立体的に涵養するためにを行っている。映像についての考察は別稿で取り上げる。

2. 学生の授業感想について

「現代芸術論」では毎回の授業終了時に講義の感想を書いてもらっている。授業感想は出欠確認もかねている。真摯な感想が寄せられて，授業内容が伝達できていることが確認できる。講義で聞き漏らしたことや疑問に思ったことの質問も多いことが分かった。2 回目の授業から毎回，レジュメと併せて授業感想や質問，疑問に答える A 4 サイズ，8 ページの「上遠野通信」(図 1)を発行した。学生との往還の中から，現代美術が系譜を通して理



図 1 レジュメと上遠野通信

解することが可能な 110 ページを超えるテキストを作成した。

本研究では「ミニマルアートからニューペインティングまで」の上遠野通信の中から，特に関連事項の深い学生の質問と筆者の答えの記述を抜粋した。意味の補完をするために，各美術様式の講義内容の簡略な説明と紹介した作家も併せて掲載した。

III. 研究成果と考察

「ミニマルアートからニューペインティングまで」の20年間の美術様式の変遷のながれから「現代芸術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論」の観点で、学生の授業感想や質問を交え現代芸術の歴史を概観し表現の根幹を明らかにする。

1. 概念の構築：ミニマルアート

コンセプトチャルアート

1-1. ミニマルアート 1960 年代中頃～

ミニマリズム、ミニマルとも言う。物語性や装飾性、再現性を最小限度に切り詰めた均一な美術を言う。ポップアートで大衆化された美術を否定し、抽象表現を徹底して推し進めた。矩形な立方体や連続する形態のミニマル彫刻とシンプルな色面とグリットなどのミニマル絵画がある。同時代にミニマル音楽や建築にも波及した。

ミニマル彫刻：ドナルド・ジャット、カール・アンドレ、ダン・フレビン、リチャード・セラ、ジョエル・シャピロ、エバ・ハッセ、ジャッキー・ウインザー、リチャード・アーシュワガー、ロバート・モリス、ジョン・マックラケン

ミニマル絵画：フランク・ステラ、エルズワース・ケリー、ロバート・ライマンの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

最小限度に切り詰めた、徹底したシンプルな造形に魅力を感じた学生が多い。ミニマルアートの作家は作品と置かれる空間との調和も巧みである。空間を操作、支配するインスタレーションによって作品が光り輝くことを学生は感じたようである。絵画作品においても、シンプルな色面とグリットによる表現は訴求力と静謐さを併せ持って心に響いている。

■ミニマルアート：徹底したシンプルさが印象的、図面で指示して発注するのに驚いた、製品デザインに似ている、工業的な雰囲気です今まで見てきた作品と違う感じがした、現代にも通じるものがある、自分でも出来そうなところが魅力、あんな作品を作りたい、親しみ易い、今までのアートの中で一番強い印象を受けた。

■ミニマル彫刻：■ドナルド・ジャット、すっきりしておしゃれ、シンプルな造形が良い、自分の部屋に置きたい、面白い■カール・アンドレ、組木の作品が面白い、1の整数の石のモニュメントの一番好きな石を選びたい■ダン・フレビン、蛍光灯の作品綺麗、蛍光灯の光は死ぬ

前の目の光のようなイメージ、欲しい、気に入りました、日常にある物でも形を変えれば作品になることを認識、蛍光灯は照明にも作品にもなるし手の届く位置なので取り替えもできるので実用になる■リチャード・セラ、プロップの作品危うくて不安をかりたてられた、設置も大変そう、シンプルでかっこいい、半円筒形の対の作品好き、巨大なモニュメントを学校にも置きたい■ジョエル・シャピロ、ひと形の作品可愛い■エバ・ハッセ、箱の中が大量のチューブの作品触ってみたい、細やかな箱に女性らしさを感じる■リチャード・アーシュワガー、フェーク作品気になる■ジョン・マックラケン、板に色をコーティングしただけでも芸術作品に見えてしまう。■ミニマル絵画：■フランク・ステラ、好き、シンプルな絵画飾りたい■ロバート・ライマン、白が好き、温かい感じがする、欲しい、見てみたい。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

ミニマルアートの作品が、あまりにシンプルでストイックなため、工業製品のように人間の生身の感覚が見えない。その思考に興味を示している。

Q 1. ミニマル彫刻を作っている時、何を考えているのだろう。

ミニマルアートを代表する作家ドナルド・ジャットは形態を徹底して単純化して基本の構造だけを造形しました。作品は色や素材、大きさを図面に書き発注して工業製品のように手の痕跡さえ入れませんでした。そこに思わせぶりの物語性や個性が入り込むのを嫌がったのです。ミニマルアートの作家は論文を書くほどに理論武装をした作家が多いのです。彼らは彫刻による空間の操作も取り入れました。抽象表現を研ぎすまして純化する画期的で究極な造形を目指したと言えます。

1-2. プライマリー・ストラクチャー 1960 年代中頃～

ミニマルアートとして括られることがあるが、厳密にはミニマルアートではない。プライマリー・ストラクチャーは基本的・構造のある彫刻を指す。ミニマルアートとの違いは、形態を構成（コンポジション）して原色の色彩を施すことにある。カロの作品が代表的。アンソニー・カロ、フィリップ・キングの作品を紹介。

1) 学生の質問・疑問と教員のコメント

ミニマルアートに近いが、一つのかたまりの中で構成の妙を駆使する作品が多い。ミニマルアートやプライマリー・ストラクチャーの立体作品は台座がなく、床や壁に直接設置するのが特徴。見慣れない造形の類型を見た

いとの問題であった。

Q 1. プライマリー・ストラクチャーには他にどんな作品がありますか？

ミニマルアートのように最小限度に切り詰めた表現に、基本の構造をコンポジション（構成）した作品をプライマリー・ストラクチャーと言います。アンソニー・カロやフィリップ・キングは代表的作家です。ミニマルアートの作家はプライマリー・ストラクチャーのようにコンポジションすることさえ否定した作品を制作しましたが、プライマリー・ストラクチャーの作家は他にもいますが資料がありません。

1-3. コンセプチュアルアート 1960年代中頃～

概念芸術、観念芸術、アイデアアートとも言う。ミニマルアートの人を寄せ付けない美術やポップアートの商業化された美術に対する反動として出て来た。作品の形態より概念を優先する。記録や言葉だけのアートもある。ビデオアートやパフォーマンスアートもこれに入る。マルセル・デュシャンのレデ・メイドの概念がコンセプチュアルアートの先例となっている。詳細は下記の教員コメントを参照。

ソル・ルイット、ジョセフ・コッス、アート&ランゲージ、ハンス・ハーケ、ジョン・バルデッサリ、メル・ボックナー、河原温、松沢宥、荒川修作、ダニエル・ピラン、ヨゼフ・ボイス、ナムジュン・パイク、ピエロ・マンゾーニの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

絵や彫刻とは違う、概念の美術に対する発想や構想の新鮮さに興味が現れている。プロセスやメッセージ、身体そのものがアートになることに関心を寄せている。

■コンセプチュアルアート：様々な表現方法があって面白い、誰でも出来そうだが出来ない、言葉遊びは楽しい、コンセプチュアルアートの芸術家が多いのにびっくり、コンセプチュアルアートはユーモアがあって好き、人の心を動かす物に媒体は関係ないということの根本を見せられた、外国の人の作品より日本人の作品の方が何となく共感できる■ソル・ルイット、作品が好き、■ジョセフ・コッス、ネオンアートかっこいい■ハンス・ハーケ、ドイツのナチを告発した作品：どうやって床を剥がしたのか気になる、ひどい歴史を一言で表した感じが伝わる、凝結立方体の水の循環の作品（プロセスアート）が面白い■ジョン・バルデッサリ、文字の作品もあるのですね

■河原温の浴室シリーズはインパクト大、日付絵画の作品で自分の生を表すという考えが素敵、ちゃんとした美術教育を受けていないのに人々に認められる作品を残して才能を感じた■松沢宥、日本にも文章だけのコンセプチュアルアートがあるのが驚き■荒川修作、養老天命反転地の作品見たい■ダニエル・ビュランヌ、ストライプが好き、社会の中で場を変容させるのがすごい■ヨゼフ・ボイス、フェルトとピアノの作品奥が深そうだが伝わるものがあつた、社会彫刻で七千本の樫の木を植える作品のスケールと考え方がすごい■ナムジュン・パイク、ビデオインスタレーションのテレビはロボットみたいで愛らしい■ピエロ・マンゾーニ、自分から出たもの全てアートという考え方がすごい、うんちの缶詰の発想とユーモアが良い、アートの基準は人によって全く違うことを認識した、地球の台座の発想が好き、コンセプチュアルアートを知らなければピエロ・マンゾーニを知れと自分の中に意識が出来た。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

コンセプチュアルアートや前出のミニマルアートの意味が良くつかめない戸惑いも見える。コンセプチュアルアートは、これまでの美術のように視覚に訴える側面からあまりにも唐突にモノがコトとして概念そのものが立ち上がるからであろう。芸術は哲学の具象であるの所以である。世界のコンセプチュアルアーティストを代表する河原温の活動に興味を示している。人間の存在を証明するために多様な方法があることが望ましいと考える。現在ではコンセプトなき作品は存在しないと考える。彼らの果たした役割は大きい。

Q 1. コンセプチュアルアート、ミニマルアートが分からない。

美術が持っている多数のボキャブラリーの中から、概念がより特化した作品をコンセプチュアルアートと言います。元はと言えば、マルセル・デュシャンの反芸術のたぶらかしから始まっています。現在のアートにおいて、作家のコンセプトなきアートは存在しません。ただ全面にそれを押し出していないから気づかないこともあります。美術も歴史の系譜のなかで各種の考えを通過して現在があると言えるでしょう。ミニマルアートもコンセプチュアルアートとは趣きが違いますが、コンセプチュアル表現の一翼と言えるでしょう。より純化して、そぎ落とした結晶が作品として立ち上がっています。ミニマルアートは極限の形態ゆえに他の追随を許しません。だからその後の作家は模倣となってしまいうようです。一時代のムーブメントとして終息してしまいましたが、美術にお

ける革新性としては大きな事件として評価されています。

Q 2. コンセプチュアルアートの言葉のアートが良く理解できなかった。

ジョン・バルデッサリやメル・ボックナーはキャンパスに直接言葉を書いて絵画としました。そこには言葉によるメッセージが発せられています。それらを機に言葉によるメッセージアートが80年代末に登場してきます。河原温の日付絵画なども文字によるアートです。記号を絵画にしたジャスパー・ジョーンズなどが先例と言えるものです。

Q 3. 河原温に興味があった。日付何枚描いているの。

河原温は世界のコンセプチュアルアーティストとしての高い評価を得ています。彼は渡米後、略歴やポートレートを一切公表していません。公の場にも姿を現すこともなく、インタビューさえ存在しません。作者の個をニュートラルな状態にすることによって見えてくる世界観を日付絵画“Today”シリーズなどで現しています。つまり、見る人の人生の営みや世界の出来事もこの絵画にオーバーラップする事が可能となるのです。日付絵画“Today”シリーズはいつでもどこでも日々制作されているようです。しかしその日の24時間以内に描けなかったものは廃棄にしているようです。一種の修行のようですね。おそらく彼は、死ぬまでやるでしょう。その絵を収める段ボール箱には、移動先の新聞の1面も同時に収められています。世界的な視野に立ったオリジナルの概念構築の1例といえるでしょう。(キャンパスの大きさはそれぞれに異なりますが、一枚一枚、アクリル絵の具で精緻に手描きされています)

Q 4. ビデオアートとは何なのでしょう？

ナムジュン・パイクがビデオアートの創始者と言われています。当時、実験映像はフィルムが主でビデオテープの作品をビデオアートとして区別していたようです。ビデオアートの特色は映像もさることながら、複数のテレビなどの機器と映像を空間の中でインスタレーションする作品などを指します。

3) 美術の見方考え方についての質問

概念の美術の理解から、美術の制度や作品に対する疑問も醸成される。授業も回を重ねるごとに理解が深まる。そこから新たな謎や疑問が出てくるのは当然といえる。これは今後の美術・デザイン教育の上でも興味深いことである。制度や規範から開放された先に真の自由があり

表現がある。答えることによって新たな意味を作り出すと考える。今後も体験や経験を通して独自の考えを構築して欲しいと願っている。

Q 1. この授業を受けるたびに自分では思いつかないような作品を見ることができて刺激になって良いです。「何でもアリ」のような印象も受け、少し困っています。

人間の思考と創造の実験の歴史が現代美術と言えるものです。その成果を認識して大いに刺激を受けることは、今後の創作活動の糧となるでしょう。一見、何でもアリのように見えますが、そこには作家の創造の苦心によって、未知の荒野を切り開いた成果を我々が享受している訳です。誰もが思いもよらないこと、または思っても美術という俎上に乗せなかったものを作品として表現したことによって、我々は「それもあるよなあ」と認識するから、何でもアリと思わせるのです。でも表現の自由という言葉は、そのようなことを指すのではないのでしょうか。「何でもアリ」が最上なことなのです。

Q 2. 精密な人物画でも宗教彫刻でも、ただ一色に塗りつぶされた絵画だったとしても、同じ芸術として人々に愛されているのだという事実改めて感心した。

人によって、カラーが好き、うどんが好きとかそれぞれに嗜好があります。それは尊重されるべきものです。作品もそのようです。違いがあることを認め、それぞれを尊重することは大切です。一色に塗りつぶされた絵画にも熱烈な支持者がいることに思いをはせてみましょう。人間の存在証明が作品でもあります。それを見ることによって共有できる幸せを感じて、もっと愛してください。

Q 3. 嫌悪感する作品もあったが、そういう感情をあたえるのが目的の作品も一つの表現ではないだろうか。最近の作品(アートに限らずマンガとかいろいろ)の中で性やタブーを題材で取り上げられると「この人はすごい」と言われているような気がしてならない、表現や問題提起の発信というより、むしろ商業的なにおいがする。

いろいろな考え方がありますので、そうであるとも言えるし、そうでは無いとも言えます。見る人の判断に任せます。性的な表現においても、現実の社会の方がもっと進んでいて過激です。ただ、アート作品は、真の人間像を求め、よりイマジネーションを高める展開を作品の中に込めているとは言えます。作品には、ある種の品性が現れます。心の貧しい人の作品は、意識なくても品性として表現に表れるでしょう。ねらいだけでは、受け取り側も賢いので永続性はないと思います。

Q 4. 誰の作品は〇〇派であると言うのは誰が決めているのですか？ 作品を作った本人が宣言しているのか、評論家が分析して分類しているのか、何を基準に分類されているのかわかりません。

〇〇派と表記すると一族郎党、労働組合のように団結して何事を…するイメージがありますが、そういったものではありません。音楽のジャンルで説明すると理解できるでしょう。クラシック、ジャズ、ロック、ヒップホップなど聴けば分類できますね。また、ロックにもハードロック、パンクロック、ヘビメタなどに細分化できます。もちろん分類出来ないものも登場します。アートも同じようなものと認識してください。時代が時代を創り、不易流行なのです。

Q 5. 作品の意味や意図は作者が発信するのか。他者が考え出すのか。

両方です。作家もコメントを発し、評論家、批評家やメディアが文章などに現します。それをもとに双方がさらに肉付けして高次元なものとして作家論、作品論などが書かれて発信します。河原温のように一切のコメントを発しない作家は、誰かが作品を言語にしている訳です。

しかし、本来、作品の答えはひとつとは限りませんので、作品の前でいろいろ想像しながら、独自の見方をするのも楽しいものです。

Q 6. 作品には額や台があることに何の疑問を持たずにいましたが、授業では無いものも沢山紹介されています。額や台は何のためにあるのか分からなくなった。

もともととは、日本においても西洋においても建築物に付随する作品を制作したので額縁も台座も必要なかったのです。それらを切り取って独立した作品として、納まりを良くする装置、契機として発明したのが額縁と台座です。美術と言う呼び方になったのも、それらと同調した比較的新しい概念だと思います。作品には額や台があることに何の疑問を持たずに、当たり前と思っている皆様のような方が人類の歴史の中では少数派なのです。現代の美術においては額縁や台でフレーミングすることに制約の収まらない作品が出てきたので不用とも言えます。日本では明治以降の欧化政策のなかで、ヨーロッパの概念を移入しましたので、日本画に金の額縁がついていることの不自然さを誰も考えることをしなかったのです。規範や常識に疑問を持つこともアートの一環なので、制度に対しても自分の考えを持ってみましょう。

Q 7. 人は自分の中の言いたいことを誰かに伝えたい、認めてもらいたいと思ったときに芸術と言われるものを

作るのでしょうか？ 自分の表現活動において、この授業で何かをつかみたいです。

表現において迷子になることは良くあることです。作品構想をより高いハードルに設定したり、独創的な未知の展開を模索すると、高い壁に突き当たり、もがき苦しみます。数ヶ月、何も手につかないときもあります。それは現状の自分より向上しようとする姿勢の現れでもあり、創造の産みの苦しみでもあります。だからいいのです。心の葛藤や造形の腐心によって磨かれ、より魅力的な人間になってください。認めてもらいたいや伝えたいは二次的なことと思います。本質は自己の精神と対話して、今出来ることに真摯に打ち込めば、自ずと道は開くものです。まずは足元に光を照らしてみましょう。

Q 8. 誰か一人でもそのアートを「すごい!」「素晴らしい!」と感じる人がいるなら、誰が作ったものでも、誰が排泄したものでもアートになりえるのでは。

そのようにいけば誰でも作家となれるのですが、それがアートとして世に認知され支持されるのは別の次元のようです。言葉が話せて、文字が書けても、素晴らしい小説は書けませんね。写真は誰でもシャッターを切れば写りますが、いい写真は別ものです。「芸術は哲学の具象である」その所以を再度考えてみましょう。

2. 物の言葉を聴く①：アースワーク（アースアート、ランドアート）

2-1. アースワーク 1970 年代～

アースアート、ランドアートとも言う。ポップアートの極度に商業化された美術を嫌い、ベトナム戦争への厭世観が後押しをして、アメリカの若者を野に還した。アメリカ西部の荒野に巨大な大地の工作物を制作した。

ストーンヘンジやサーペント・マウンドなどを前例にしている。同時期、イギリスでは自然に対して敬虔な態度で接して最小限度の痕跡や歩行によってアースワークが行われた。80 年代にアンディ・ゴールズワージーによって自然の事象と調和するアースワークが作られ、自然と人間の関係を再考させるものであった。詳細は下記の教員コメントを参照。

古代の遺跡を先例として

ストーンヘンジ (BC 1800 年～BC 1400 年、イギリス)、環状列石 (縄文後期、秋田大湯遺跡)、サーペント・マウンド (アメリカ、オハイオ州)、ナスカ地上絵 (100～600 年ペルー)

アメリカ：ロバート・スミッソン、マイケル・ハイザー、ウォルター・デ・マリア、ナンシー・ホルト、ジェーム

ズ・タレル, デニス・オッペンハイム, アナ・メンディンタ

ブルガリア: クリスト

イギリス: リチャード・ロング, ロジャー・アックリング, デビット・ナッシュ, アンディ・ゴールズワージー

ベルギー: ボブ・バーシュレーン

日本: イサム・ノグチ (米) 野村仁, 吉田重信, 高橋睦治の作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

アトリエを離れ、自然の中で作品を作ることに興味深い感想を寄せる。自然の素材や事象、現象を捉えて行為と記録が密接なアートに共感しているようである。20世紀は人間が自然を征服してきた歴史である。今世紀に入り温暖化や自然の大きな変動に環境問題が意識される。自然に敬虔な態度で接してきたアースワークの考えを参考にしたい。

■アースワーク: 感動するものばかりであった、理解が深まった、ダダやポップアートより共感できる、一番興味ある分野、絵画や彫刻よりアースワークの方が芸術作品として好き、自然の美しさや奥深さを再認識出来る作品ばかりであった、規模が大きいのには驚いた、自由奔放で地球を楽しんでいる、死ぬ前に見に行きたい、実際に見たらちっぽけな悩みなど吹き飛んでしまうだろう、巨大な作品より小さい作品が好き、太陽の流れ・月の流れ・石・雪を使ったもの楽しそう、自分でも制作してみたい、見てみたい、国によって作風が違うのが興味深い、自然との調和や変化が見れて興味深い、圧倒的な存在感で壮大な感じがした、壮大な景色と相まって目を惹くものが多かった、自然物で作られた作品はありがたい感じがする、アースワーク作品をはじめて沢山みました・自由に綺麗で大好きになりました、一つ一つの作品がユニーク、面白い活動、地球を愛している、自分の狭い世界観をもっと広げていきたいと思った、イギリスのアースワーク: いくつかの同じものを集めてきて手を加えてつくるなど地道さが自然の形成の時間の流れのように感じられた。

■アメリカ: ■ロバート・スミッソン, グレートソルトレークに設置したスパイラル・ジェッティが空に浮かんでいるよう見えて素敵、もっと詳しく見たかった、グーグルアースで本物が見られて感動的 ■マイケル・ハイザー, ダブルネガティブの作品は地球全てが作品とする発想の大胆さに驚いた ■ウォルター・デ・マリア, 雷を呼び寄せるポールがたくさん立っている風景が好き、最後に自然が作品を完成させるのがすごい ■ナンシー・ホルト, 天体を意識させる作品が興味深い、トンネルの作

品素敵、差し込む光が綺麗、自分の庭に置いて見たい ■ジェームズ・タレル, 自分の求める地形 (ローデン・クレータ) を探してその場を活かして行為を加えるのがすごい、空を切り取って見せるのが良い、タレルの作品の穴から空をずっと見てみたい。自然と一体になれる、天体を意識させる作品が興味深い ■デニス・オッペンハイム, 身体一つで出来るのがいい ■アナ・メンディンタ, 全身泥まみれになって擬態するのが印象的。

■ブルガリア: ■クリスト, 傘を大量に配置・建物をまるごと包む・地球をキャンバスに見立てると言ったスケールの大きな発想が素晴らしい、大掛かりな作品が多いので費用が大変そう、作品自体よりその作り方や社会との関わり方に注目されているように思います、クリストは作品の自由を守るため莫大な費用を全て自分で集めると聞きました。

■イギリス: ■リチャード・ロング, 歩行によって作られたラインの作品が好き、世界中でちょっとした痕跡を残す作品が素晴らしい ■ロジャー・アックリング, 虫メガネ一つで作品が作れるのがすごい ■デビット・ナッシュ, 接ぎ木でドームを作る発想がすごい、倒木を余す所無く使うのがすごい ■アンディ・ゴールズワージー, 自然のちょっとした変化を作品で視覚化して見事、葉っぱを使った作品綺麗、岩を包んだ紅葉が綺麗、紅葉で作った作品感動的、石を重ねてバランスをとる作品がすごい・哀愁を感じた、湖に枝を刺し円環が映り込む作品が好き、雪のアースワーク綺麗で感動、つららの作品良い、自然の中に自然の物を不自然に置いている所がとても美しい、ノースポール (北極) での作品の東西南北と太陽の運行について: フェアバンクス (アラスカ) では白夜の時太陽は沈まず2時頃地平線すれすれからまた日が昇ってきました。

■ベルギー: ■ボブ・バーシュレーン, 葉っぱ (生命) は時間と共に水分が無くなるのが分かった。

■日本: ■イサム・ノグチ (米), 枯山水に水を入れた作品好き ■野村仁, 月の運行を記録する作品が面白い。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

アースワークの講義を聴いて、自分も制作してみたいとのコメントを寄せる学生は多い。北海道の自然豊かな土壌ではなおさらであろう。地球の自然を保全しながら

アースワーク的な思考をすることは有意義であろう。なにより21世紀には自然に対して何をすれば良いのかを問われているのだから。

Q 1. アースワークの作品が良かった。

特に自然が豊かな北海道ではアースワークが向いてい

ると言えるでしょう。現に高専生は13年間に渡り、森羅万象を素材とする「夏のアースワーク」や、雪や氷のエネルギーを素材とした「冬のアースワーク」を実施して大きな成果を現しました。形態を作る事を優先するのではなく、環境保全に留意しながら自然の懷に抱かれ、その声に耳を傾け、自然の事象や現象の中から真理を見つける体験は崇高なことと言えるでしょう。なにより21世紀に求められるデザイナー像は、環境に対してどのようなコメントを発することができるかが、特に重要に成ってくると確信しています。アースワークの講義の中では、初期のアメリカの作品の革新性と環境への無感心について紹介しました。それとは考えが異なるイギリス系作家のアースワークで、環境の保全に最大限配慮して敬虔な態度で自然と一体となった作品などを紹介しました。彼らの根底には日本の禅の思想が入っているようです。自然のなかで人間は生かされていることの東洋思想を西洋の人々も緩やかに気づきだしたようです。逆に、近年の日本や中国は「自然を征服する」側の思想にすっかりはまってしまうましたね。経済を優先にして自然を省みないつけを子孫に残したら可愛そう…。

Q 2. アースワークで使用する土地代や制作の費用は。

多くは支援者や芸術財団等のファウンデーションから支援を受けるようです。公共の再生プロジェクトなどで制作を依頼された場合は予算化された経費が支給されます。クリストのアートプロジェクトは全て自費で運営されています。構想のドローイングなどをコレクターや美術館などに売却して費用を捻出しています。それは作品の自由と公平性を保証するためだそうです。

Q 3. 宇宙にアース (Space?) ワーク作った人はいますか。

アメリカは1969年7月20日、アポロ11号で人類初の月面着陸をしました。アームストロング船長が月面に星条旗を立てた(領土であること)のが宇宙初? のアース(ムーン)ワーク? と言えるかも知れません。NASAでは宇宙にメッセージ発信したり、火星や木星を探索したりと超スペースワークを展開しています。人智を超えたところで人類は活動を初めているようです。なにせ150億光年前の光を今見ている訳ですから時間の概念を超越しています。イサム・ノグチの初期の作品に月から見える「顔」のランドスケープアートを提案した作品があります。ナスカの地上絵や万里の長城など宇宙から認識できる遺跡もあります。千利休のわずか二畳の茶室、妙喜庵待庵は、その小ささゆえ想念としての宇宙の広さを感じさせます。銀閣寺の向月台や銀沙灘、月待山は月

を愛でるための装置としての造形です。アースワークにおいて天体の運行や事象を作品に取り入れている作家は多いです。太陽はあなたの視線を受けてはくれませんが、月はあなたの視線を柔らかく受け止め、そして想いの先に視線を投げかえてくれます。万葉のいにしえのアース(スペース)ワークとも言えるでしょうか。

Q 4. 大学の帰りに石山緑地に寄ったりします。周りの切り立った岩と様々な彫刻作品が、吸応し合ったり対立したりして、場の空気がその彫刻によって変化しているのを感じます。今回のアースワークを見て芸術家の作品が、周りの環境と呼応して生まれた磁場のようなものを通して見ると世界の見え方が変化するという点で、芸術作品はある種のメディア・媒体的な存在なのかと思ったりします。

このような場でこのような考えを持てるのは素敵なことです。芸術作品はおっしゃる通りに空間を変容させる一つのメディアとも言えますね。日々の中から物事の本質を考える姿勢に感心しました。石山緑地は國松明日香教授(高専)を代表とする彫刻集団「サンク」の造形です。イサム・ノグチのモエレ沼公園造成など札幌市には芸術活動に理解のある行政の方がいます。都市の再生や活性化に芸術文化が重要なメディアであることも認識したいですね。

Q 5. アースワークは大学の授業の中ではやらないの?

残念ながら大学の授業の中で実施する授業時間を確保するのが難しいのです。美しい芸術の森キャンパスで自主的な活動を支援できればと思っております。日頃から自然をよく観察し、事象、現象の理を発見することもアースワークと言えるでしょう。月の出は毎日約50分ずつ遅れて昇ってきます。ちょうど帰宅の時間帯に大きな満月が東の空に昇ります。三日月は夕方には西の空に沈んでしまいます。夜更けに月が昇り、日中に空に浮かんでいる月を見ることもあります。自然は刻々と変化して連続している時間のなかでは、その変化を認識することがあまりありません。週に一回の散歩で毎週、毎週の劇的な自然の変化をみることができます。先週咲いていた花はもう見られない。だから花は愛しいのですね。そんなところから始めて感性を豊かにしてみましょう。

3) 美術の見方考え方についての質問

アースワークから美術の制度や考え方が醸成されて、質問が導き出される。アーティストの勇氣に自己を振り返ったり、国によっての考え方の違いや、創作の根源や身近な事例など、多様である。丁寧に答えることによ

て、学生の思考の源泉となることを願う。

Q 1. これまでの私にはアートは紙と筆さえあればできるものというような固定概念がありました。でも今回の講義でアースアートを見て、その固定概念は消え去りました。もっと広い視野で世界を見れば、今まで気がつかなかったアートがいっぱいあるかもしれないと思いました。

紙と筆、もしくは鉛筆1本でも立派にアートはできます。ただアートはこうでなければいけないと言うものではありませんので、固定概念を振り払うことは、より自由な精神になれたということです。世界には地球全体がアトリエと言う作家もいます。楽しく豊かな人生を創作と共に歩むのも良き生き方かも知れません。

Q 2. 日本でも公共の場にいろんな造形物があればもっと楽しいのと思いました。

日本にもパブリックアートはたくさんあります。これまではモニュメントにシンボリックな役割を持たせ、機能やコミュニティの役割はあまり考えなかったようです。一時的パブリックアートなどを提案する方法もあります。

Q 3. 日本人、他の国の人にとって芸術の概念の違いは、

宗教感、歴史、人種の違い、教育、食べ物、気候などによって考え方は変わり概念の醸成も違います。違うから良いのではないのでしょうか。白人系の人たちは自分たちが人類のなかで最も優れた人種であると優越感を持っているといわれています。そんなステレオタイプの思考はさておき、現代美術は欧米の価値観ではかられたスコープを通して物事が判断されています。アートの流通と経済活動も欧米を中心に回っています。別のスコープから見ると違った価値判断が見えてきます。日本人の場合、現代美術という洋服がやっと違和感なくフィットしてきたようなものです。日本人の八百万の神&仏教&土俗宗教観は曖昧のなかの振れ幅の中に真実を求めています。欧米の人からみたら何が言いたいのか明確ではないと見えるのかもしれませんが。インターナショナルになるためには欧米の文脈にこれまでなかった新鮮な概念を打ち出す必要があると思います。印象派がジャパネスクに目を向けたのも、キュビズムやダダの作家がアフリカ美術に目を向けたのも欧米の文脈にこれまでなかった新鮮なものとして受け入れたのでした。

Q 4. 芸術家とは何かを観客に伝えたいから、作品を制作しているものと個人的には思っています。その時代の流れによって、理解しやすいものであったり、理解し難

いものであるかは、以前の流派に反発するように（つまり理解しやすい流行の次は、理解し難いものになる場合が多い）流れを決めていくのは、作品が無機物ではなく、血の通っている人間のような存在に高めているという事実は面白いなあと思ってしまいます。

なるほど、このような考え方もありますね。作品を血の通っている有機的な見方はおもしろいですね。これからも研鑽して独自の考えを持って視点を獲得してくださいね。事実は小説より奇也。

Q 5. 先生は滝野霊園のモアイなどをどう思いますか。あれらは何か意味があつてあるのでしょうか。

私は時々観測にいらっています。モアイは増えて33体モアイ菩薩となっております。大きな石像のお釈迦様も出来ました。ストーンヘンジ、バビロニアの有翅馬像？など世界のご利益を独り占めの感があります。オーナーの趣味なのでしょう。膨大な費用をかけた「ありがた感」にあふれています。約2kmのそれらのアプローチを抜けると、ミニマル彫刻のような連続した墓石が数万個並んでいます。都築響一氏の「珍日本紀行」のなかで珍スポットとして紹介されています。

Q 6. いろいろな作品を見て、小さい頃外で遊んだ記憶が蘇った。何の意味もなく、石とその辺の草をむしって積み重ねてみる…今は何も考えずにそういったことが出来なくなっている。

大人になると知識や教養、規範でいっぱいになります。なかなか人前で出来なくなりますよね。子供は、全てを手にとって、舐める様に確認しながら遊ぶことが認識を確立することの上で重要です。作家は子供の心を宿した大人なのです。自己目的のためには、石や草でも遊びます。一度、心を解放してシロツメクサの花冠などを作って見てはいかがでしょうか。環境や自然からの啓示を頂けるかと思います。

3. 物の言葉を聴く②：アルテ・ポーヴェラ もの派 その他の同時代美術

3-1. アルテ・ポーヴェラ（イタリア）1960年代中頃～

直訳で「貧しい芸術」だが、日常にある素材を用い隠喩的なイマジネーションを喚起させる造形に特色がある。

詳細は下記の教員コメントを参照。

ヤニス・クネリス、マリオ・メルツ、ミケランジェロ・ピストレット、ジョバンニ・アンセルモ、ジョゼッペ・

ペノーネ、ルチアーノ・ファブロ、ジュリオ・パオリーニ、ジルベルト・ゾリオ、ピエル・パオロ・カルゾラーニ、カリン・サンドラ（ドイツ）の作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

アルテ・ポーヴェラはネオダダやヌーボレアリスムのように、ジャンクアートではない。素材そのものが持っている言葉に耳を傾けてイメージーションをつぐむ作品が多い。物質そのものの組合せで、固有な言葉を語らせる作品が新鮮で面白いようである。

■アルテ・ポーヴェラ：素材をそのままいかした味わいが良かった、シンプルなかたちをしている、イメージーションが出来て面白い、物質に固有な言葉を語らせる作品が新鮮、物と物の関係をもっと考えなければと思った、感覚が好き。

■ヤニス・クネリス、画廊に生きた馬 12 頭の着想にビックリ、生き物をアートに使うには常に同じ姿でないところが面白い、素材の固有の言葉が感じられます、造形がダイナミック、物質がエネルギーに変換出来ることを認識される■マリオ・メルツ、ドーム型の作品の危うげな感じが良い、ワニがぶらさがっていたり果物が飾られていたりネオンやドームなどユニークな所は良かった、ワニと数字の取り合わせが新鮮、自然界の定理定数初めて知りました自然から発生するものはきれいにまとまるのにビックリ■ミケランジェロ・ピストレット、鏡面に描かれている絵を見てみたい自分も作品の一部に取り込まれてみたい、鏡面の作品の映り込みの作品に惹かれた、その空気感を楽しむ試みが面白い、鏡面の作品は周りの空間や人を作品の中に取り込み境界を無くすところが面白い、自由の女神のような作品は日本の観音様を思わせた・巻き付いている布は芥川龍之介の「蜘蛛の糸」に出てくる人々に見えた、合体彫刻は面白い、鏡を使って宇宙より広い空間を作ることに感動■ジョバンニ・アンセルモ、磁力やエネルギーなど不可視なものを可視化するのが興味ある、ねじれの作品の奥深さに驚いた、ねじれの作品自体にエネルギーを持たせた状態は何か言い知れない内なる物を感じさせる、石と石の間にレタスを挟む作品の驚かされた、石に乗って紙に描かれた手のドローイングは霧の向こうから手を差し出しているようだった実物を見てみたいです■ジョゼッペ・ペノーネ、木の本性まで剥く根性がすごい、ブロンズの木枝の水を引く発想が良い■ルチアーノ・ファブロ、クリスタルの鳥の足のような造形が奇麗、イタリアの地図を物質化してぶら下げるのがユニーク■ジュリオ・パオリーニ、ギリシャやローマの先人達を意識しやすいのだと感じた■カリ

ン・サンドラ、壁や卵をつるつるに磨き上げ景色が映るのがすごい発想、ディテールを魅せる写真も重要、あんな写真撮れるようにになりたい、他の磨いた作品がありますか興味あります。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

アルテポーベラの直截的なインスピレーションに興味や疑問が発生する。モノとモノをチョイスして結合させるような化学変化を醸し出すのかも創造となる。視点を変えれば全てアートにもなりえるのではないだろうか。

Q 1. アルテ・ポーヴェラの作品は日常にあるもの、既存のものは 1 つ 1 つ素晴らしいアートに仕上がっていた。これが無ければアートは出来ないということは無いのだと感じた。今までのアートに対する考えが覆された気がする。それにしてもアートだと言い張れば、何でもアートになるのだろうか？ 実際のところ境目はあるのだろうか。

Q 2. 見る人の創造に任せると言われて少しがっかりしました。このような発想は、なんだか自分の表現したいものから逃げているような気がする。ちゃんと制作で何を表したかったのか解説されるのが好きです。

Q 3. たくさんの作品に触れることができました。このような芸術を生み出すとき作者は必ずしも伝えたいものやコンセプトなどを考えているのか気になった。今回はインスピレーションというか直感的な作品が多かった。

美術の流れの中で日常の物質を使うのは、これまでも登場してきましたので理解出来たかと思います。アルテ・ポーヴェラの作家たちは物質には固有の言葉があり、イメージを喚起させる「ちから」がある事を発見したのです。物と物は会おう事によりどんなイメージの化学反応を引き出す事が出来るのを実験したのです。ですから、このようにすればこうなるという予定調和で作品を制作している訳ではありません。彼らは物質の神秘性やイメージを引き出す「チャネラー」の役割を作品で表しています。見る人に判断を委ねているように見えますが、深い洞察力、歴史的考察、熟知した思考などのフィルターを武器とした立派な作家なのです。一見、誰でもマネが出来そうですが、それをイメージする力がなければ持続性のあるものにならないでしょう。禅の庭は、禅の公案（禅問答で師が投げかける課題）とも言われ作庭者の「内なる魂の表現」と言われています。実に厳しく凛とした表現です。しかし見る人には「いかに見ても、解釈してもよろしい」と、融通無碍（ゆうずうむげ：一定の考え方にとらわれることもなく、どんな事態にも滞りな

く対応出来ること)の寛容さです。瞬時に自己の心に問い、瞬時に判断をくだす。とらわれないこととは、最も自由で、最も個人を尊厳している禅の考え方であり慈愛なのです。日本は奥が深いですね。

Q 4. マリオ・メルツの作品のフィボナッチ数列は何で出来ているのですか。ネオンで作る意味があるのですか。

フィボナッチ数列は自然界の定理定数だそうです。ひまわりの種を中心から見ると、そのような配列になっているようです。1・2・3・5・8・13・21・34・55・89・144・233・377…となるようです。数字はネオンで表現しています。当時は脱物質系の新しいメディアとして数字を表現するのに都合良かったのではないのでしょうか。今のように、LEDや液晶ビデオプロジェクターなどがあつたら、非物質の映像を使ったかも知れません。

Q 5. カリン・サンドラの卵はゆで卵じゃないですね。

生卵です。綺麗に景色が映り込んでいました。あまりにも美しく磨かれていましたので大理石でつくった卵のように見えました。物質に最小限度の行為を入れて最大限の特性を引き出す優れた事例です。作る。創る。造る。つくる。ことを考えさせる作品でもあります。白い壁の作品も景色が映り込むほど磨き込んだ作品です。彼女の作品は実態としては存在しますが、いわゆる虚空の作品とも言えます。

3-2. もの派(日本) 1960年代末～

モノとコトのものである。物ではない。アルテ・ポーヴェラと同じような動向であるが、もの派にはアルテ・ポーヴェラのような隠喩的なイマジネーションを喚起させる造形より、ものどものをどのように布置して関係項をどのように結ぶのかなど、禅の庭のような造形感と素材の扱い方である。多摩美の斉藤義重教室から育った関根伸夫の「位相一大地」を先例に李禹煥を精神的支柱としていた。詳細は下記の教員コメントを参照。

斉藤義重を師として、李禹煥、関根伸夫、原口典之、菅木志雄、山中信夫、成田克彦、小清水漸、榎倉康二、北辻良央の作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

現代美術の本場は欧米である。日本人の顕著な活動には自信を貰えるのか、目を輝かせる。自己との感性がしっくりといく造形が多いのであろう。先人を励みに、日本人しかない感性で、自信を持って自己の表現を見つけて欲しいと願っている。

■もの派(日本)：良いと思う作品が多かった、独特な作品がたくさんあった、やっていることはシンプルなことだがすごく素敵な作品に出来上がっていて惹き付けられる、立体だからこそ出せるような作品でアイデアが面白くて驚きました、物質の特質を利用した作品が多く面白かった、既にあるものや自然を使って何かを表現しようという行為は面白いし見ている側が色々考えさせられるものがあると思う、スライドの中に色が少なかったように思う。

■斉藤義重(師として)、ベニアにドリルで描いた作品が好き、シンプルで禅的な感覚に見えた、作品を見たいと思った■李禹煥(リー・ウーハン)、ガラス板を石の自重で割れる作品は衝撃を受けました、絵画作品のストロークや点は平面的でシンプルな線で構成されているのに気配や空間を感じて興味深い、絵の具のかすれ具合が良い、アジア・東洋の空間を感じた、日本的なので共感できた、感性に訴えるものがある、「間」「空気」が良くて魅せられた、四隅の筆致が好き、落ち着く感じが良い、感覚が奇麗■関根伸夫、「大地位相」の虚と実の発想が面白い、スコップで地面を掘って出来た作品がもの派を代表する作品と知ってアートの奥深さを改めて感じた■山中信夫、部屋全体がカメラの考えが良い■成田克彦、角材を木炭にするのはビックリ■小清水漸、水を思わせる木のレリーフが良い■榎倉康二、染みの作品は初めて見ました。

・アルテ・ポーヴェラともの派にまたがる感想

■物にはイメージがついてまわるので集積された物が膨張したり躍動したりして心の中で踊り狂うようでどの作品も本当に面白かった、今日のスライドはスッキリしているのにとっても斬新なもので美術が身近に感じられた、作品によってその空間や見る側の感覚がガラリと変わると思います、物と物との関係といったものがアートになるのだと思った、アルテ・ポーヴェラともの派の概念が似ている、アルテ・ポーヴェラやもの派は「秘密基地」的な想像力願望が芸術にはあるのではと思った。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

・アルテ・ポーヴェラともの派にまたがる質問

アルテ・ポーヴェラともの派は美術の動向は違うが、物の言葉を聴く姿勢は似ている。しかし物語をつぐむ根底の考え方の歴史観が違う。作品を見たいという欲求の現れは歓迎すべきことである。

Q 1. 日本はシンプルでイタリアの源泉はギリシャと言ってましたが、ギリシャは複雑と言う意味ですか？

ギリシャは複雑という意味ではありません。日本のシンプルさは仏教の禅や、神道の簡素さから来ていると思われるので理解の範疇なのですが、イタリアのイメージはギリシャからローマ文化と流れていますので、ギリシャ神話の読み取りが必要ということです。不幸なことにギリシャ神話に通じてないので、元ネタの解釈が難しいと述べた次第です。

Q 2. スライドでいろいろな作品を見てきたけど、実物を見たいと思いました。すぐ行けるおすすめの所を紹介してください。

アルテ・ポーヴェラやもの派の作品はインスタレーション（仮設）の作品が多く一次的に設営する作品が多いです。つまり永久に展示出来る作品ではありません。北海道では芸術の森野外美術館に、もの派作家のその後の作品が数点あります。芸術の森美術館には李禹煥の版画のコレクションがあります。国立近代美術館や東京都現代美術館などにコレクションを見ることができます。イタリアをはじめ著名な美術館にはアルテ・ポーヴェラの作品がコレクションされていますので機会があったらご覧ください。残念ながら日本では、もの派もアルテ・ポーヴェラも知らない方がほとんどではないでしょうか。

・もの派の質問

もの派の作品は、空間や造形のシンプルさがあり、日本もしくは東洋のすがすがしさが現れている。学生は、自己に照らし合わせて、その根本に触れたいのであろう。

Q 1. 李禹煥の絵画作品から、習字（書道）の持つ、何らかの意味、言葉のメッセージを消して、芸術作品にすることは可能ですか。意味・メッセージこそが作品なのでしょうか。

書の場合、図としての文字が、意味的にも表現としても圧倒的な存在感を示します。それで良いのではないのでしょうか。李禹煥（リー・ウーハン）は書と同じような筆致を使って絵画を描いていますが、ストロークや置かれた点を通して、気配や空気感を表現しています。桃山時代の画家、長谷川等伯は松を描いて、松ではなく冬の凜とした冷え枯れた気配を描いたと言われています。

文字も記号です。犬や猫には意味をなさないものですね。文字を換骨奪胎すれば別の次元が発生すると思われます。

Q 2. 関根伸夫さんの「位相一大地」の積み上げた円柱の土の塊は何層かに分かれていましたが、地層を生かして作られたのでしょうか？

関根伸夫さんの「位相一大地」の作品はもの派の代表的作品であるばかりではなく、戦後を代表する現代美術と言われています。アースワーク作品でもあります。1968年、第1回神戸須磨離宮現代彫刻展招待作品です（直径2.2m 高さ2.6m）。友人5、6人とスコップで掘った土をベニア板の型枠に少しずつ位相して踏み固めたのです。ですから地層も天の方向へ少しずつ積み重なったのです。スコップがあれば芸術は出来るのですね。

Q 3. 原口典之さんの作品は水でなくて廃油なので、万が一風等で廃油が溢れたら大変では。

黒々とした廃油は鏡のように景色を映し出します。人間が何らかの経済活動を経て廃棄物となることに、人と自然と時代の関係を意味付けするものがあると推測されます。廃油が環境汚染をしないように配慮したことは間違いないでしょう。

3-3. その他の70年代の美術

もの派全盛であったが、それとは違う美術を制作している作家は大勢いる。70年代に活躍した作家を紹介。

福島敬恭、桑山忠明、山田正亮(以上日本のミニマルアート)、流政之、若林奮、村岡三郎、豊福知徳、山本正道、細川宗英、砂澤ビッキ、中川幸夫、つげ義春の作品を紹介した。

1) 学生の感想から抜粋

村岡三郎のユニークな造形と発想の面白さに共感したようである。70年代の作家の活躍があって現在がある。

■村岡三郎、「貯蔵・蠅の生体とその運動量」の中が気になる、ビニールにコンクリートを入れて重さで作る「自重」などアイデアが素晴らしい作品が出来るのに感心■
つげ義春、子供の頃から読んでました・小さい時はほとんど理解できなかったが感覚で面白さと罪悪感を感じた。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

もはや、つげ義春を知らない世代なのである。優れた文化を紹介する責任が大人にはある。

Q 1. 最後に紹介した漫画の人は誰ですか。漫画はアートと呼べるものなのですか。

つげ義春さんです。シュルレアリスムの手法の漫画「ねじ式」などで日本を代表する漫画家です。文学を超えた漫画、芸術を超えた漫画と言われ多くの知識人に支持されている作家です。MANGA や ANIME は世界に発信している日本の文化です。絵描きの中でも色々な表現のグラデーションがあることが望まします。優秀な漫画家の作品は総合芸術（ストーリー・構成・画力）として相当レベルが高いです。「AKIRA」大友克洋は世界的なスーパースターなのです。世界の宮崎駿もしかり。

3) 美術の見方考え方についての質問

講義が進み現代に近くなると、時代がリンクして身近な所や事が自己に思い当たる。それに対しても学生を涵養するために丁寧に答える事こそ大事なことである。

Q 1. 先生の解説があってこそ理解が出来ます。作品の解説は非常に難しいですね。特に作者が語らない場合、解説する人とはどのような人なのでしょう。主観的、見る目ですか。

プロ野球や相撲などの解説はプロ経験者が多いですよ。美術の場合、美学や現代美術を勉強した評論家や学芸員、アートジャーナリストなどが評論や批評、解説を書きます。美術の場合、引退するプロ作家という人がいませんが、美術を良く熟知している作家は創造者としての視点から他者の作品分析や解説に長けています。思考と経験の蓄積から客観的に作品を評価する見る目も有しています。

Q 2. 色々なスライドの作品を見ていると芸術の森の野外美術館へ行って見たくなりました。お勧めの作品ありますか？

ダニ・カラバンの作品は環境と場の特性をリサーチして作った好例といえます。授業の中で紹介した作家やこれから紹介する作家の作品もあります。この授業で身に付いた感性で、改めて作品を見えるもの自身の変化が確認できて良いのではないのでしょうか。丘の最上にあるアントニー・ゴームリーの作品は空間に調和しています。他にも著名な作家の作品がコレクションされています。見るべき作品が多いので、ゆっくり触れ合ってみてはいかがでしょうか。札幌芸術の森野外美術館は設営の計画年度終了後は新しいコレクションを入れないので、10年後、20年後、変化する美術状況のニーズに答えられるかは心配な所があります。

Q 3. 何も考えずに無心で自分の中の何かの放出というか、「デザイン」ではなく「アート」な作品を作ってみました。

現代美術はデザインや工芸や建築出身のアーティストも多く、どこを出るかより、何を思考するのが重要です。大いに自主制作をして楽しんでください。よく芸術は自己完結して、独りよがり、自己満足で、とステレオタイプの発言があります。そのような言葉は美術の何たるかを良く理解していない人が簡単に口にしています。現在の美術は社会とのコミュニケーションを造形に取り入れ、社会に対する問題意識を提示したり提案する作家も多々おります。時代と共に、拡張する多様なメディアと表現方法が理解頂けると思います。20 世紀のデザイナー、アーティストとして社会に何をアクセスして何を発信するのが問われているのです。

Q 4. 全てのものに対して、良し悪しの判断, Yes, No の判断が出来ないと特に感じる今日この頃です。自分は何をわかっていて何がわかっていないのか、何を知ればいいのか。

人と比べると齟齬（そご：くいちがいが、ゆきちがいが）が生まれます。君たちはまだ若いので、器で言えば水が底の方にしか溜まっていない状況です。これから色々なことに会って啓示を受けます。そこから確信と言えるモノをつかまえて深く掘り下げることが可能です。書物との出会いも同じです、必要に迫られてこそ確信のある書物を求めて出会います。善悪や Yes, No の判断も社会的要請に請われると瞬時的な判断が求められ出来るようになります。まず、得意なことや好きなことに磨きをかけて自信をつけましょう。

4. ポストモダニズム①：ニューペインティング

1970 年代後半～

4-1. ニューペインティング 1970 年代後半～

(新表現主義：ネオ・エクスプレッショニズム)

ニューウエーブの絵画の時代。ミニマルアートやコンセプチュアルアートの禁欲的な態度を嫌い、純粋に絵を描きたいと言う若者が台頭した。人々も取り残されたようなミニマルアートやコンセプチュアルアートと違い、分かり易い伝統的な具象絵画を熱烈に受入れた。彼らは物語性や隠喩を画面に取り入れ、あらゆるものからイメージを借用して制作を行った。世界的な動向として広まった。現在は普遍的に力のある作家を残して画壇から消えた作家が多い。著名なアートディーラーが戦略的に仕掛けた美術とも言われた。詳細は下記の教員コメントを参照。

アメリカ：ジュリアン・シュナーベル、ディヴィット・サーレ、ロバート・ロンゴ、エリック・フィッシュル、ジョナサン・ボロフスキー、テリー・ウインターズ、ロス・ブレクナー、ドナルド・バチュラー、スーザン・ロットエンバーグ、キース・ヘリング、ジャン・ミッシェル・バスキア、ケニー・シャーフ、マーク・コスタビ

ドイツ：アンゼルム・キーファー、ゲルハルト・リヒター、ジグマー・ポルケ、A・R・ペンク、ゲオルグ・バセリッツ、ヨルグ・イメンドルフ、ジリ・ゲオルグ・ドクピル

イタリア：エンツォ・クッキ、サンドロ・キア、フランチェスコ・クレメンテ、ミンモ・パラディーノ、サイ・トウォンプリー

イギリス：リサ・ミルロイ

フランス：クロード・ヴィアラ、ジャン・シャルルブレ

日本：有元利夫、堀浩哉、辰野登恵子、根岸芳郎、松本陽子、大竹伸朗、関口敦仁、近藤克義、吉本作次、小林正人、吉沢美香、福田美蘭の作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

絵画の復権の時代である。学生は、分かり易さと親しみやすい造形に心を奪われたようである。絵を描く行為は、意外にプリミティブな行為である事が理解できる。だが奥が深いのも事実である。世界的な潮流となったニューペインティングは著名な作家の数も多い。地域特性や時代背景が見事に読み取ることが可能な感想である。

■ニューペインティング：新しい試みで新鮮、国の状況や環境が芸術にも浸透しているのが興味深かった、いろいろな美術がひっくるめられて面白い、意味がないというものがあり意味を知りたいと思った、綺麗な色がたくさん出てきて楽しかった、子供が描いたようなものが多かったが様々な技法が興味深かった、創作の材料はどこにあるのか分からない・見逃してはいけないと思った、意味のあるものやないものなどなんでもありで見ていて面白い、いろいろアイデアが作品に詰まっていると思った、アメリカとドイツの作品の雰囲気の違いは色んな意味でショックでした、私達の時代に近づいていくにつれ芸術が多様化して行くのが非常によく分かった、ニューペインティングは簡潔すぎて一過性な感じがした。

■アメリカ：ハッピーな感じが好き、アメリカの作風が好き、色が鮮やかな作品が多い■ジュリアン・シュナーベル、プレート・ペインティングを見て発想はいつどこで湧くか分からないものだと思った、皿を割って貼った作品が好き、割れた皿を用いるなどどんなものでも作品にしてしまうアーティストの考えが浮かぶのが不思議

議、すごく大きい作品ですね■ディヴィット・サーレ、多重なイメージの重なり合いが面白い■ロバート・ロンゴ、社会の危機感がよく出ていた、レリーフや立体と絵の取り合わせが面白い■エリック・フィッシュル、ブラインドからさす光のスリット表現が好い、登場する人物など作品が印象的、人それぞれに解釈できるのが素敵、絵にストーリー性を感じるのと明るく少しエロティックな感じが入っているのが良い■ジョナサン・ボロフスキー、ベルリンの壁に描いた走る人の絵見てみたい、ガラス窓のルビーの作品は窓越しに（当時の）東ベルリンの状況を示す絵だと知り深いものを感じた、人型の作品が好い、ベニアでつくられたモノクロの人の作品は影のようで不気味な印象、ハンマーリングマン（靴職人）が動くのに驚いた・見てみたい■テリー・ウインターズ、胞子や細胞の絵は不思議な感じ■ロス・ブレクナー、宇宙を表現しているのが幻想的、宇宙は不思議な感じがした、宇宙は想像力をかき立てられる、絵で癒される、宇宙に興味あるので好感を持った■ドナルド・バチュラー、子供心を喚起させ和みます、欲しい作品です、ほのぼのとして良かった、可愛い雰囲気が出ている、可愛い、最高に良い■キース・ヘリング、作品が好き、可愛い、ポップですごい、コラボTシャツでご存知■ジャン・ミッシェル・バスキア、シュガー・レイ・ロビンソン（伝説のボクサー：元世界ミドル級および世界ウェルター級チャンピオン）の王冠の作品が好い、逆さまの日本語が絵に描いてあって気になった（「クールの誕生」と描かれていました。バスキアはアカデミックな勉強に憧れていました。日本の本も作品のヒントにしていたので抜き出したのでしょう）最高に良い、子供の絵のようだが色使いが新鮮ですすごい絵、可愛い。

■ドイツ：何か心を打たれるものがありました、生まれや環境で大分違いが出てくると認識、国により独自色があるので、旧東ドイツの作家は時代や環境の影響が強い傾向にある、ドイツの作品は時代背景が反映されてとても暗い印象を受けた、戦争が心に傷を負わせているのが分かる、コンセプトチャルボイの多いと思った、重い感じがした。

■アンゼルム・キーファー、精神性の重いメッセージが伝わった、辛い絵が多い、戦争の反省や贖罪の意味が読み取れた■ゲルハルト・リヒター、色々な作品をもっと見たい、ナチを表した作品や死んだ女性の絵がシュール、ぼけた写真のような絵画はイメージネーションを刺激する、幻のようなはかない感じが美しい■ジグマー・ポルケ、旧東ドイツから見た日用品のあこがれのまなざしで社会の状態を見て取るのがなるほどと感じた■A・R・ペンク、記号のような絵なのに旧東ドイツの悲惨さひた

むきさが出ていた■ゲオルグ・バセリッツ、オーストリアの美術館で見ました大きくて人がみんな逆さまで哀しい絵が多いが色使いが綺麗だった■ジリ・ゲオルグ・ドクピル、ろうそくで絵をかけるのが驚いた。

■イタリア：色鮮やかであるがそれとは違う良さや歴史を感じた、色感がいい、不思議な感じがした、意味を知るにはいろいろ学ばないといけないと思った、ギリシャ神話のイメージがするが意味が読み取れなかった。

■フランス■クロード・ヴィアラ、空豆型のパターンペインティングが好き。

■日本：色合いが自分に近いモノを感じた、日本人の作品も良かった■有元利夫、絵が嫌い、中世の絵画のよう

■松本陽子、ダークロックの勢いがいい、岩というより羽に見えた、絵具を布で拭き取る技法やってみたい■大竹伸朗、色鉛筆の日本景が嫌い、網膜シリーズが綺麗、コラージュがすごい、絵画のエネルギーを感じる作品が多い■日比野克彦、段ボール紙でこんなにつくってすごい、デザインとアートの融合を感じる■小林正人、絵画の一本の線を引き続けて3月をかける根性がすごい■福田美蘭、未来的な感じがして作品に興味を持った、視覚トリックのよう。素晴らしい才能を感じました。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

絵画の主題、表現論、地域特性、歴史認識論、商業としての芸術と多方向な質問が寄せられた。自分たちが生まれた時代に活躍した絵画の時代への共感と、自己の自信と不安が交錯する事実は興味深いものがある。

Q 1. 先進的なアートもアメリカが中心である事実はなかなか興味深い。どの様な世界も似ているようなものですが、アカデミックに傾けば一般性を失い、一部でしか評価されず、一般性に重心を置くとアカデミック側にうとまれる。自分としてはバランスが大切だと思うのですが、砂糖と塩で比重を均一にしようとして時代の流れを形成していくアートの世界というものは面白い。

なかなか箴言（しんげん：いましめ、格言）なお言葉を頂きました。冷静な客観視が素晴らしい。アートは経済活動の一環ですのでアメリカを中心としてアートが流通しています。作品の価値も経済の裏付けがあってこそ成立しています。そこには新たな作家を発掘して支援して育てる、の意味も含まれています。日本では経済至上主義のエコノミックアニマルと揶揄されていて、お金が動いているのに、こと芸術に関しては無理解でアートマーケットの成立さえ不完全なのです。いまだに作家に精神論的生活を要求し糊口をしのぐ作家像…という状況です。これが日本人は世界の子供と言われる所以です。

だから山村浩二のアニメーションの「頭山」の上でお花見をしながら憂さを晴らす…これが日本の状況ではないでしょうか。アカデミックは元々、学門、芸術の推進機関のことを指しています。現在では形骸化された既定路線を踏襲する作家や作品を指します。アカデミックと一般性はおっしゃる通りです。日本では公募展のサロンという世界の美術とは乖離した画壇が形成されてアカデミックと一般性が同居しています。なかなか世界に発信出来ない小世界なのではないかと思われませんが、日本の鑑賞者もそれを求めているのが現状ではないでしょうか。人それぞれの生き方が望ましいのですが、新たな地平を切り開く心意気を支援する状況も望まれます。アートは社会を映す鏡です。今、生きている同時代の作家のライブな作品が一番興味深いのではないのでしょうか。いろいろな考え方で流れを形成することを享受しましょう。

Q 2. ジュリアン・シュナーベルの作品が最初が100万、200万、後に1億2億になると聞いて作品の価値、値段というものはどのように決められるのか気になった。

女性のアートディーラー「メアリー・ブーン」と世界のアートの動向を決定する力のあるアートディーラーの「レオ・キャストリ」は共同で、ジュリアン・シュナーベルを戦略的に売り出したのです。プレートペインティングはマスコミにも大きく取り上げられ、アート界にも新鮮なショックを与えました。評判が評判を呼び一躍時代の寵児になったのです。コレクターが欲しがり個展を開く度に値段が高騰したのです。それは「シュナーベル・エフェクト」と呼ばれました。評判の作家の個展はオープン前にコレクターやマスコミなどを招待し、内覧会で即日売ることが多いのです。現在ではシュナーベルは作られた神話とされています。しかしながら彼の絵によってニューペインティングがはじまり、ポストモダンの扉も開いたのです。

Q 3. ロス・ブレクナーの宇宙空間のような絵は、どんな画材でどのように描いたのですか。

油絵具で描いています。色を何層にも塗り重ね、サンドペーパーをつけたサンダーなどで擦りだして下の色を出しています。なかなか神秘的な絵でしたね。ロス・ブレクナーの絵画は精神性の高いオリジナリティーを感じます。良質な画家として評価されています。

Q 4. スーザン・ロッテンバーグさんは馬ばかり描いているというお話でしたが、なぜか気になりました。本当に馬に魅せられている人っていますよね。なぜでしょう？ 他の動物でも特にそういった作家はいますか。

正確には馬の絵ばかりではありません。女性ダンサーが回転して手がぶれている状況を斜め上から見た絵などがあります。日本ではあまり紹介されていませんが馬の絵を多く描いているようです。馬に魅せられている作家は世界に大勢います。アメリカのデボラ・パタフィールドはジャンクを使った馬の彫刻を作っています。馬に神聖を見るのではないのでしょうか。イギリスの作家のマーク・ウォリンジャーは一時、写実的なサラブレッドの絵を描いていました。大きなお金が動くシステムが競馬にはあり、経済としての戦略的な交配などを揶揄する作品なのでしょう。

Q 5. ゲルハルト・リヒターは何を表現していこうとしているのでしょうか。

ポップアート時代から現在まで、常にトップランナーとして現代美術のなかで活躍するスーパースターの1人がゲルハルト・リヒターです。写真を元にしたピンぼけの絵画は人々にイメージを強く喚起させ増幅を促します。題材は日常や政治など、ある種のルポルタージュ絵画と言えるもので、時代の表現者とも言えるでしょう。本物を見ると見事な絵画力で感動します。カラーチャートの作品やガラスを積層して映り込ませる作品、スキーでストロークを付けた抽象絵画など幅広いバリエーションがあります。

Q 6. ドイツと同じように日本も戦争の傷跡があるはずなのに全然違うのかなと感じた。

第二次世界大戦の終わりから1989年までドイツは東西に分裂していました。東西冷戦のイデオロギー体制によって同じ国民が離ればなれになる。その困難さや傷跡は想像にあまりあると思われます。日本人はアメリカの傘の下で、戦争責任や賠償もリセットされ、海に囲まれているのでボーダーをめぐるトラブルも少なく問題意識も希薄なのかも知れません。

Q 7. ヒトラーも絵を描いていたようで評価されていたのか気になります。

ヒトラーはウィーンの美術大学に不合格になり成功しなかったようです。政治・軍隊のトップになると、当時全盛のドイツ表現主義やダダ、シュルレアリスムなどの前衛表現を有害であると激しく非難し「退廃芸術」と烙印を押して排除しました。アカデミックなロマン主義や写

実的な表現を好み自分の気に入った作品を公認芸術として認めました。これはコンプレックスの裏返しとも取れる行為で自己の埋められない過去に仕返しをして決着させたのでしょうか。他者の表現行為や人権を尊重出来ない人を「ファシスト」と呼ぶのでしょうか。

Q 8. 国によって世界の見え方の視点が違うところが面白いと思った。一概にひとくくりにはできないが、日本はどんな位置にいるのだろうか？

Q 9. 国によって作風が変わるのは見ていて楽しいです。

国によって固有のアイデンティティがあります。歴史性、民族性から醸成される考え方、表現の仕方も当然違いが発生します。個々のナショナリズムの尊重があつてこそグローバル化があるといえます。ただ受け手側には当然、ステレオタイプのイメージが発生します。日本と言えば、いまだにフジヤマ、ゲイシャ、サムライ、ハラキリ、…近年ではアキハバラ(アキバ)、ガングロ…などがインプットされているようです。私達も諸外国をステレオタイプのイメージで見ているのではないのでしょうか？ 日本は意識する、しないは別にして仏教や神道が精神や心理の中に深く流れていることは間違いありません。正月は神社でお参り、葬式は仏教、結婚式はキリスト教式、というのも八百万の中の異国の神として受入れる寛容さの現れです。アメリカにはアメリカのフロンティア精神が、ドイツにはドイツの心の精算の問題が、イタリアにはイタリアの重層な文化の流れがあり、その違いが面白いところではないのでしょうか。

Q 10. 先生の授業は毎回、全然知らないことを教えていただけなので楽しいです。でもどんどん分からない世界が広がってゆく作品が多いような気がします。芸術家と私の脳、何か違うのでしょうか。

Q 11. 授業で、いろいろ学ぶとアートというものが良く分からなくなる。奥が深い。

知らない作品が多く混乱や戸惑いも良く理解できます。学ぶほどに謎がうまれるものです。知識をその先へ繋げたいと言う欲求の現れで歓迎すべきもののなのです。疑問がうまれたら独自に調べてみましょう。現代芸術論で学ぶ、ダダから現在までの美術表現は20世紀の歴史の中で現されてきました。これは事実であり、このような歴史を一部しか知らされずに日本人のほとんどの人が享受出来なかったのは、日本の美術教育や美術の制度、それを含めた社会制度そのものに何か問題があるかと思います。ファッション、スポーツ、音楽、文学、芸能、社会、政治、経済、事件、事故がリアルタイムにもたらさ

れるのに、なぜ美術は知らされないのでしょうか？ デザイナーと言うアート最も近い人々は、アートとデザインが相互に影響を与えていることを学ぶ必要があります。芸術家の脳も皆様の脳もさほど変わりはありません。ただアーティストは表現すべき造形言語をいっぱい蓄えているので作品として表せるのです。皆様も心を全開に開放して森羅万象をインプットする所から始めてください。アウトプットするものが出てくるはずです。

Q12. 今までたくさんのアートを見て、その本質を捉えることができない。その人それぞれで良いと言うけれど、作者が本当に言いたかったことと違うことを感じるのはやはり鑑賞する上でよくないのでしょうか？ 何も分かってないということになるのでしょうか？

札幌市立大学とは？ これを的確に言える人はいないでしょう。大学とは建物のことは指しませんね。学生、教員、授業、施設、職員などモノとコトが総体となって色々な切り口から語ることが出来ますね。それと同じで誰も作品の本質を性格に捉えることはできません。なぜなら制作している作家自身も正確な着地点を求めて作っていないからです。ここはデザインと違うことです。作りながら悶え苦しみ、もっと先へ、もっと良いモノが出来るはずだと作家は思っています。鑑賞者が本質を捉えようと思ったら、まず実物の作品に接してみましょう。作者からのメッセージが何か伝わってきたらしめたものです。作家は色々なことを思いめぐらして制作しています。クイズや答案のように正解は一つではないのです。さらに作品の本質が知りたければ図録を読むなり作品集、評論文などで研究してみましょう。作品とあなたの心がどのようにシンクロさせるのかを楽しみましょう。

Q13. モダンアート(アメリカ)というのは、中世のアートに比べてなんと下品なことか、安いことか！ しかし、そう思いながらも、モダンアートの美しさに改めて気がついた時、それはとても高貴なものにかわり興味深く私の胸の中に沈むのだろう。だが今日見たスライドも良くわからない。ドイツの作家達は表現が暗いと思います。

表現の自由も保証されていますので、感想の自由も保証されています。ちなみに今回紹介した作品はポストモダンの作品です。現代美術のことを以前はモダンアートと言っていました。時代を重ねるとモダンは古い概念となりましたので、現代ではコンテンポラリーアートが現代美術を現す言葉となりました。モダンアートとは、現在ではミニマルやコンセプチュアルアートを含むそれ以前を指します。線引きは割と曖昧ですが、ポップアートなど

は、もはやモダンアートに入っています。現代の美術は真の評価が定まっていませんので、100～200年後に何が残るのかも不明です。歴史の中で評価の定まった作品を鑑賞者が評価するのは楽なことなのです。評価の定まっていない作品を独自の視点で評価することが面白いのです。本物の現代美術作品に触れて涵養してください。ドイツ人の作品も意図してセレクトしている訳ではありません。80年代に活躍が顕著な作家を紹介しました。ドイツ人の心の痛みを知る機会になれば幸いです。

Q14. 自分の好きなことをやっている人たちが毎回紹介されていて楽しい授業なのですが、今日は改めて自分の好きなことを自由にやっている素晴らしさを感じました。上手い下手というのはそれでも最低限必要なのでしょうか。作品とは技術あつてのものなののでしょうか。

技術を全面に出して作品の中で語ってしまうと、作品の真に言いたかったことを後退させることがよくあります。技術は10年やれば上手くなります。10年やってものにならない大工さんや職人さんは稀です。創造の根幹は発想と何をメッセージするかが第一であって、第二に表現を具現化する技術が必要となってきます。両輪と言えませんが、駆動エンジンは第一と思ってください。自分の好きなことを自由にやっている素晴らしさを感じて頂いて嬉しく思います。表現の自由を認識できたと言うことです。誰にも邪魔されることがない自己表現をできるフィールドを獲得することは素晴らしいことなのです。自己研鑽を期待しています。

Q15. 時代のニーズに合っていくと売れていくようですが、ニーズに合わせて作っている人はいるのでしょうか？ デザイナーはニーズに合わせて作ることがメインであるように思いますが、アートは誰か他人や時代のニーズに合わせて作るものなのでしょうか。

アートの場合、時代のニーズに合わせて作っているようでは遅いのです。ニーズを作り出すような作品のみが時代のニーズを作ると認識しています。独自の作品世界を創出すると、やがて時代がこちらに回ってくるようです。但し、人気作家になるとコレクターに請われて作品の注文(ニーズ)を受けて制作する作家もいます。

以上で、「ミニマルアートからニューペインティングまで」の美術様式を、学生の講義感想や質問を交え現代美術の歴史を概観し表現の根幹を明らかにした。

IV. 結語

本研究は、「ミニマルアートからニューペインティングまで」の20年間の現代美術の様式を解説したものである。

シンプルな造形で美術様式を変革させたミニマルアートから始まって、関連するプライマリー・ストラクチャー、概念の自立を図った企てのコンセプチュアルアート、地球の自然や天体と調和をアートで示したアースワーク、物の言葉を聴いて造形をする、アルテポーベラとの派、ポストモダニズムの扉を開けたニューペインティングとその他の美術を併せながらアメリカ、ヨーロッパと日本を横断的に網羅した。

特に、作品の制作意図を示す「現代芸術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論」の観点から概観した。各項目ごとに現代美術が理解できるように、学生の質問や感想に答える形で考察を交えながら作品事例をあげて、詳細に表現の根幹を明らかにした。

学生の現代美術に対する戸惑いや興味は、徐々に理解から親しみへと変化し、それに応じて質問や感想の内容も変化するのも教育者として興味深い。デザインや芸術文化を創造するためには、先人の歴史を学ぶと同時に芸術文化も学ばなければならない。創造の源泉として、本

研究が考え方の大きなヒントになるであろう。

熱心に取り組んでくれた学生に敬意を表したい。

参考文献

- ・ロバート・アトキンス：現代美術のキーワード。東京：美術出版社，1993
- ・美術手帖編集部：現代美術事典 アンフォルメルからニューペインティングまで。東京：美術出版社，1984
- ・美術手帖編集部：現代美術 ウォーホル以降。東京：美術出版社，1990
- ・美術手帖編集部：現代美術入門。美術出版社，1986
- ・H.W. ジャンソン：美術の歴史 第4部近代世界。東京：美術出版社，1990
- ・H.H. アーナスン：現代美術の歴史。東京：美術出版社，1995
- ・エドワード・ルーシー＝スミス：現代美術の流れ 1945年以降の美術運動。東京：パルコ出版，1986
- ・榎木野衣：爆心地の芸術。東京：晶文社，2002
- ・中村信夫：少年アート。東京：弓立社，1986
- ・クリストファー・フィンチ：ポップアート オブジェクトイメージ。東京：パルコ出版，1979
- ・巖谷國士：ユリイカ ダダ・シュルレアリスム。東京：青土社，1981
- ・ケネス・クウツ＝スミス：ダダ。東京：パルコ出版，1976
- ・artscape 現代美術用語集
<http://www.dnp.co.jp/artscape/reference/artwords/index.html>
- ・フリー百科事典 ウィキペディア (Wikipedia)